豚 肉 情 勢

12月12日 更新　　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 10月の全国豚と畜頭数は、1,437千頭と前年を上回った(前年比103.3%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道104.5%、東北103.6%、関東104.3%、北陸甲信越105.7%、東海100.9%、近畿95.7%、中四国103.4%、九州・沖縄102.4% ○ 11月の全国と畜頭数は、1,491千頭(速報値11月30日まで集計、前年比100.5%)と前年並みの見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より1日多く、1日当たりの平均と畜頭数は70,976頭(前年実績:74,190頭/日、前年差▲3,214頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;11月24日付け)によると、12月;1,484千頭(前年比102%)、令和6年1月;1,420千頭(同103%)、2月;1,319千頭(同101%)、 3月:1,420千頭(同97%)、4月:1,409千頭(同106%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約101%と前年並み。
	2.輸入	○ 10月の輸入通関実績は、豚肉全体で70.2千ﾄﾝ(前年比92.6%、前月比113.6%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが33.5千ﾄﾝ(前年比118.8%、前月比125.5%)、フローズンは36.7千ﾄﾝ(同77.1%、同104.6%)となった。 国別でみると、チルドではカナダ、メキシコが増加し、フローズンでは、カナダが増加した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド　　;カナダ16.2千ﾄﾝ(前年比141.6%)、米国13.4千ﾄﾝ(同92.3%)、メキシコ3.8千ﾄﾝ(同177.8%) フローズン ;スペイン10.3千ﾄﾝ(前年比76.6%)、メキシコ5.8千ﾄﾝ(同75.9%)、カナダ3.9千ﾄﾝ(同144.2%)、デンマーク3.8千ﾄﾝ(同46.4%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月28日公表)によると、11月の輸入量:72.4千ﾄﾝ(前年比82.4%)と下回り、12月の輸入量:70.2千ﾄﾝ(同102.0%)と上回ると見込まれる。 チルドは、11月は前年のカナダ産輸入量が多かったことに加え、北米産の現地相場高や為替の影響等から下回ると見込まれ、12月は前年の北米産の輸入量が少なかったことにより前年を上回ると見込まれる。 フローズンは、国内の輸入品在庫量が多いこと、欧州産やメキシコ産の現地相場高騰から、11月、12月ともに下回ると見込まれる。 令和5年11月:合計72.4千ﾄﾝ(前年比82.4%)、チルド32.5千ﾄﾝ(同77.0%)、フローズン39.9千ﾄﾝ(同87.3%) 令和5年12月:合計70.2千ﾄﾝ(前年比102.0%)、チルド31.6千ﾄﾝ(同118.7%)、フローズン38.6千ﾄﾝ(同91.4%) 直近3か月(10月～12月)平均:合計71.2千ﾄﾝ(前年比91.9%)、チルド32.8千ﾄﾝ(同101.3%)、フローズン38.4千ﾄﾝ(同85.1%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 10月概況	○ 総務省発表の10月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,850g(前年比95.5%)、支出金額が2,862円(同99.9%)となり、 購入量は前年を下回ったが、金額は前年並みとなった。(※2019年度比:購入量 102.3%、金額 112.0%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の10月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,271.7億円(前年比102.2%、既存店ベース101.0%)と前年を上回った。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉へ、さらに鶏肉に需要がシフトする傾向が続き、鍋需要の低迷が加わり不調となった。牛肉は相場高で苦戦した店舗が多い。 豚肉は、国産価格の高騰に落ち着きが見られ、小間切れや挽肉など普段使いの商品が好調となった。鶏肉は手頃なむね肉が好調。ハム・ソーセージの加工肉は回復傾向が見られた。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した10月販売概況によると、畜産品の売上は926.3億円(店舗調整後で前年比100.0%)となり、前年並みとなった。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	11月概況	○ 月前半は、暖かい日が続いた事で肉豚の成育が順調に進み、出荷頭数が増加したため需給は緩んだ。 中旬以降は、気温の低下とともに一部の肉豚成育に影響があり、下旬から月末にかけて出荷頭数が伸び悩み需給が引き締まった。
	3.加工肉仕向量	○ 日本ﾊﾑ･ｿｰｾｰｼﾞ工業協同組合発表の10月の豚肉加工品仕向量は28.3千ﾄﾝ(前年比90.6%)と、加工品の値上げによる販売不振は続き、前年を下回った。 内訳は、国産原料5.7千ﾄﾝ(前年比94.1%)・輸入原料22.6千ﾄﾝ(同89.8%)で、国産・輸入原料ともに前年を下回った。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは10.2千ﾄﾝ(前年比96.6%)と、下回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月28日公表)によると、10月末の推定期末在庫量は212.5千ﾄﾝ(前年比98.5%、前月比94.5%)となり、前年を下回った。 内訳は、輸入品;192.8千ﾄﾝ(前年比98.3%、前月比94.7%)と前年を下回り、国産品;19.7千ﾄﾝ(同100.0%、同91.6%)と前年並みとなった。 また、今後の期末在庫は、11月は205.7千ﾄﾝ(同96.0%)と前年を下回り、12月は205.4千ﾄﾝ(同100.1%)と前年並みで推移するものと見られる。
枝肉相場	1.R5年11月速報値	○ 11月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;11月30日時点)は、519円/kg(前年比91.9%)と前年を下回った。 11月の相場は、月前半が温暖な日が続いた事で肉豚の成育が順調に進み需給が緩和し弱含みで推移した。月後半は、気温の低下とともに一部の肉豚生育に影響があり 出荷頭数が伸び悩んだことに加え、輸入豚肉の供給数量減等から需給が引き締まり強含みとなった。月平均では前年・前月ともに下回った。
	2.予測 R5年12月	○ 12月の相場は、冬らしい寒さとなり鍋物需要等が強まることに加え、出荷頭数が11月より減少する見込みであることから需給が引き締まり、強含みでの推移が見込まれる。

＜相場予想:　東京市場、税込み＞	10月実績	11月速報値	12月予測	令和6年1月予測
【上物】(前年比)	560円/kg(91.4%)	519円/kg(91.9%)	600円/kg(106.2%)	540円/kg(101.9%)

備考

国内生産量の推移　(千頭:%)

暦年	国内と畜頭数	
	千頭	前年比
R1年	16,320	99.3
R2年	16,686	102.2
R3年	16,836	100.9
R4年	16,577	98.5
R5年　7月	1,247	99.7
R5年　8月	1,300	98.4
R5年　9月	1,293	95.3
R5年　10月	1,437	103.3

農水省出荷予測　(千頭:%)

暦年	出荷予測	
	頭数	前年比
R5年 11月	1,481	100
R5年 12月	1,484	102
R6年　1月	1,420	103
R6年　2月	1,319	101
R6年　3月	1,420	97
R6年　4月	1,409	106

輸入量の推移　(ﾄﾝ・%)　財務省 :通関実績

暦年	輸入数量		チルド数量	
	ﾄﾝ	前年比	ﾄﾝ	前年比
R1年	958,963	103.7	407,360	100.1
R2年	891,807	93.0	416,334	102.2
R3年	903,455	101.3	420,361	101.0
R4年	977,158	108.3	403,854	96.3
R5年 7月	74,924	90.2	30,294	98.0
R5年 8月	73,930	85.4	35,456	104.7
R5年 9月	61,773	85.1	26,692	90.7
R5年 10月	70,198	92.6	33,509	118.8

家計消費量　(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り			
	数量	前年比	金額	前年比
R1年	21,178	98.4	29,637	96.9
R2年	22,973	108.5	32,861	110.9
R3年	22,559	98.2	31,892	97.1
R4年	22,297	98.8	32,487	101.9
R5年　8月	1,737	96.7	2,681	99.6
R5年　9月	1,781	97.1	2,755	101.7
R5年　10月	1,850	95.5	2,862	99.9

加工品仕向量　(千ﾄﾝ・%)

暦年	加工品仕向量	
	千ﾄﾝ	前年比
R1年	372.1	98.8
R2年	376.7	101.5
R3年	379.4	100.6
R4年	368.5	97.4
R5年　7月	27.8	89.7
R5年　8月	26.8	91.3
R5年　9月	27.1	88.6
R5年　10月	28.3	90.6

市況の推移(東京市場)(円/kg・%)

暦年	豚枝肉「上物」(税込み)	
	円／kg	前年比
R1年	524	101.2
R2年	561	106.9
R3年	546	97.3
R4年	582	107.0
R5年8月	710	110.9
R5年9月	695	109.3
R5年10月	560	91.4
R5年11月速報値	519	91.9